

ると思ふのである。



次に私の望遠兼顯微鏡装置 (Tele-Mikro Foto-Ansatz) に関する新装置を發表申上げる事とする。

望遠撮影法

- (1) これは矢張りミクロン其他總てのプリズム装置の撮影を行ふ場合と全く同じ方法で望遠撮影を行ふのである。私は工作の便宜上双眼より單眼の Zeiss 社製 Turmon 2×21 (即ち倍率 8 倍, 前玉口径 21 ミリ) を用ひる事にした。望遠の時はこれで相當暗くなるので, 晴天の野外遠景を寫すにしても早い B を以て寫さねばならぬ。殊に遠景を明瞭にする爲に淡黄色フィルターを最前方に装置するから餘計撮影の露出は伸びる。カメラ(ロライフレックス 4×4 判。但し 6×6 判でも全く同じ) は速寫ケースから出して用ひる。
- (2) 先づ動搖の虞の無い大きな三脚 (但し私のは輕金屬製ポケット型 12 段伸獨乙製高級品の一である。BKW と稱するもの。——もし活動寫眞用の木製のものならば更に適當と思ふ。然し普通の眞鍮三脚でも動搖せぬものならばよい) を立て三脚の頭部に望遠装置を有する臺を置き, 其上にカメラを据える事にしてある。
- (3) 最初一々ピントを合はす必要もあるが, 私のは既に一定の調節個所に赤ペンキの標記を附加してあるために, ピントは見ず, 直接下方撮影レンズに附加するだけで, 見當さへ注意すれば, 直ちに撮影が出來

るやうにしてある。

- (4) 撮影の時は手を以てレンズを覆つてから, レリーズを以て T に置いたシャッターを開く。そして手を取去つて露出し, 手を以て再び覆つて露出を了り, シャッターを閉ぢる。これでよい。

次に顯微鏡撮影の場合を記す。

顯微鏡撮影法

- (1) 前記の如くカメラにプリズム望遠鏡を附したまゝ, 望遠鏡の前玉に普通の顯微鏡に用ひてある對物レンズ即ち前玉 (Objektiv(獨)オブエリチーフ Objective (英) オブジェクチーフ) のみを持ち來つてはめる時は, 直ちに優良なる顯微鏡とする事が出来る原理を應用したものである。
從つて數十里先の遠い目標に向つて望遠撮影を行つたまゝの状態に, たゞ一つのレンズを附加する事によつて, 今度は數ミリ先の小物體に對して, 顯微鏡撮影が出来る事になるのである。
- (2) 最も苦心した點は, カメラと望遠鏡と顯微鏡前玉との工合のよい結合法であつて, 組立が最も簡單に出来る事, 用具は互に損傷せしめぬ事, 組立てれば全部が緩みなく固定せられる事, 又取外しが容易である事, そして時間を要せぬ事, 携帶上最小形に作るべき事と云ふところにあつた。否それにも増して幾多の材料を求めて, その中から適當なものを見出すことにあつたが, 國産舶來あらゆる物の中から見出す爲に, 各所を求めて歩く事が大なる骨折であつた。一組を作る爲に,

多数を犠牲とする損失も大きかつた。

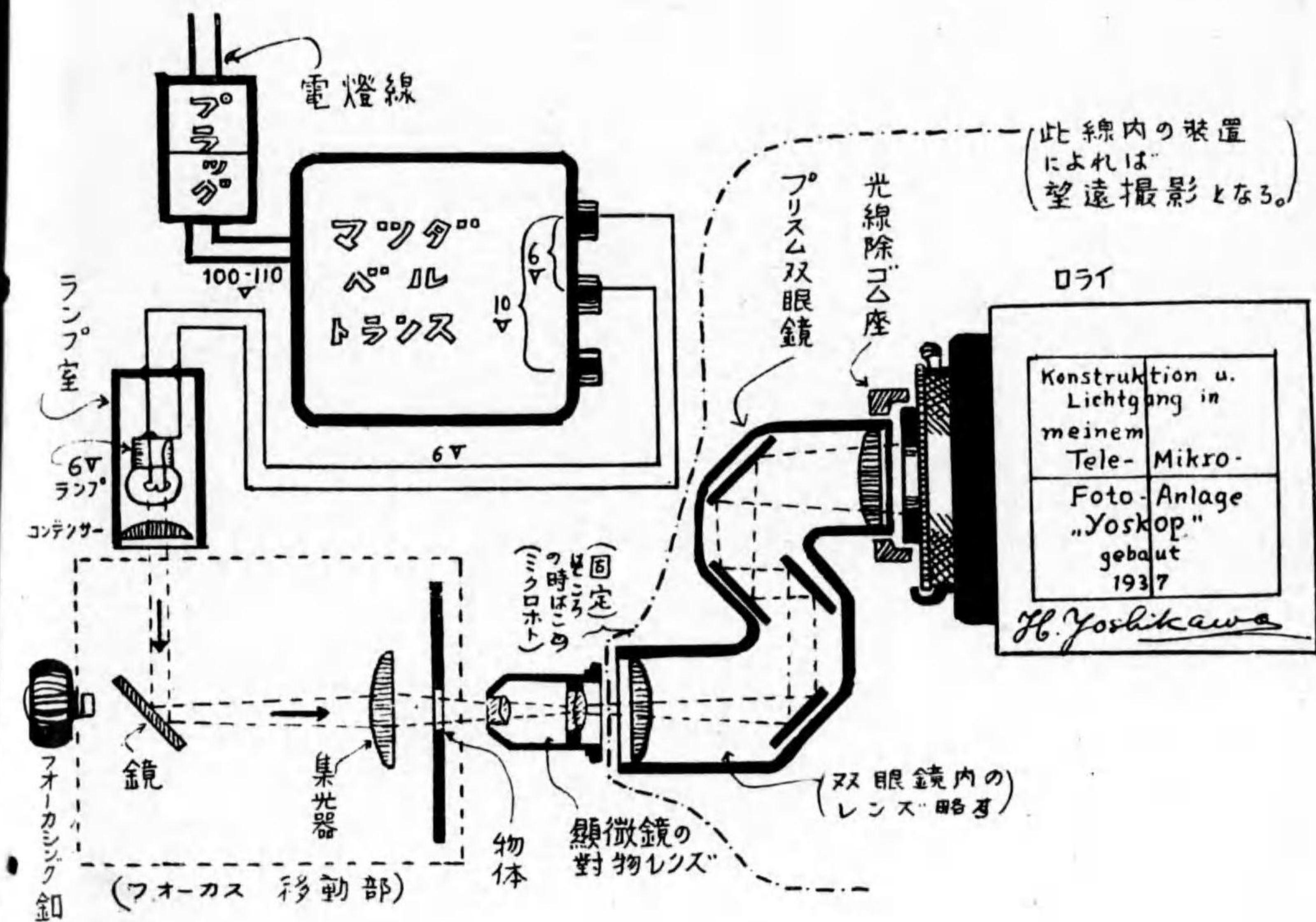
- (3) 其結果望遠鏡としては6倍(なるべくならば4倍位のものが取扱上樂である)のプリズム式、顯微鏡前玉としては200倍以下の倍率に用ひる場合の對物鏡を用ひる事がアマチュアに最も成功率が多いであらう事を決定したのである。
- (4) 此方法によつて顯微鏡撮影を行ふ場合にも、光は非常に暗くなるから、相當長い露出を與へねばならぬ。それ故實行上の便宜上、晴れた日、庭などで日光の直射下にテーブルを持出し、此上で行ふ方が一番樂である。つまり日光を以て直接光によつて物體を照射せしめる事が最も強い光線を得る方法で、従つて露出時間は最も短くてすむ。場合によつては1/25秒でよい事もある。
- (5) 又夜間ならば傍の極めて近くから懐中電燈の光を以て、物體を照らしても案外旨く行く。被寫體により1秒又は2秒の露出で撮影出来る事もある。
- (6) ピントは矢張り望遠鏡の方で行ひ、ピントの調節は要するに顯微鏡の前玉と物體間での調節である。被寫體即ちプレパラートにした面と對物鏡間の距離は200倍乃至400倍の擴大に於いて漸く數ミリの間隔である事を記憶して作成せねばならぬ。これ以上は別に本格的な顯微鏡寫眞術の知識を要するが、それ程むづかしく考へなくとも實驗して居れば自然と判つてくるものである。
- (7) 本格的の顯微鏡法の中例へば油浸法とか、プレパラート背面にコンデンサー、又は絞を置くなどの事、又金屬顯微鏡法の知識などは、艱

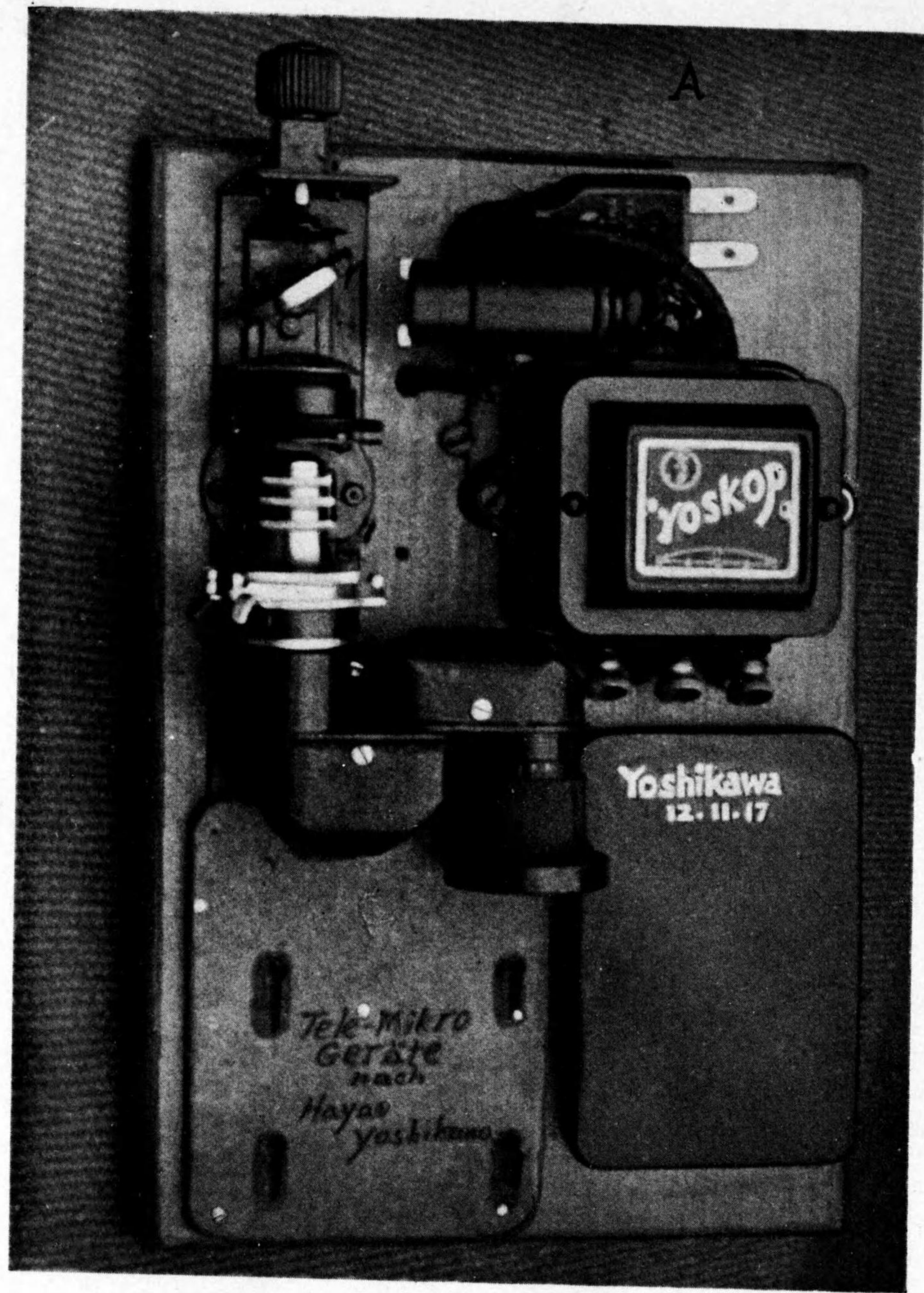
て關心を持つべき事であるが、初心のアマチュアとしては未だそれ程の必要はないと思ふのである。

III 実験の爲の注意一括

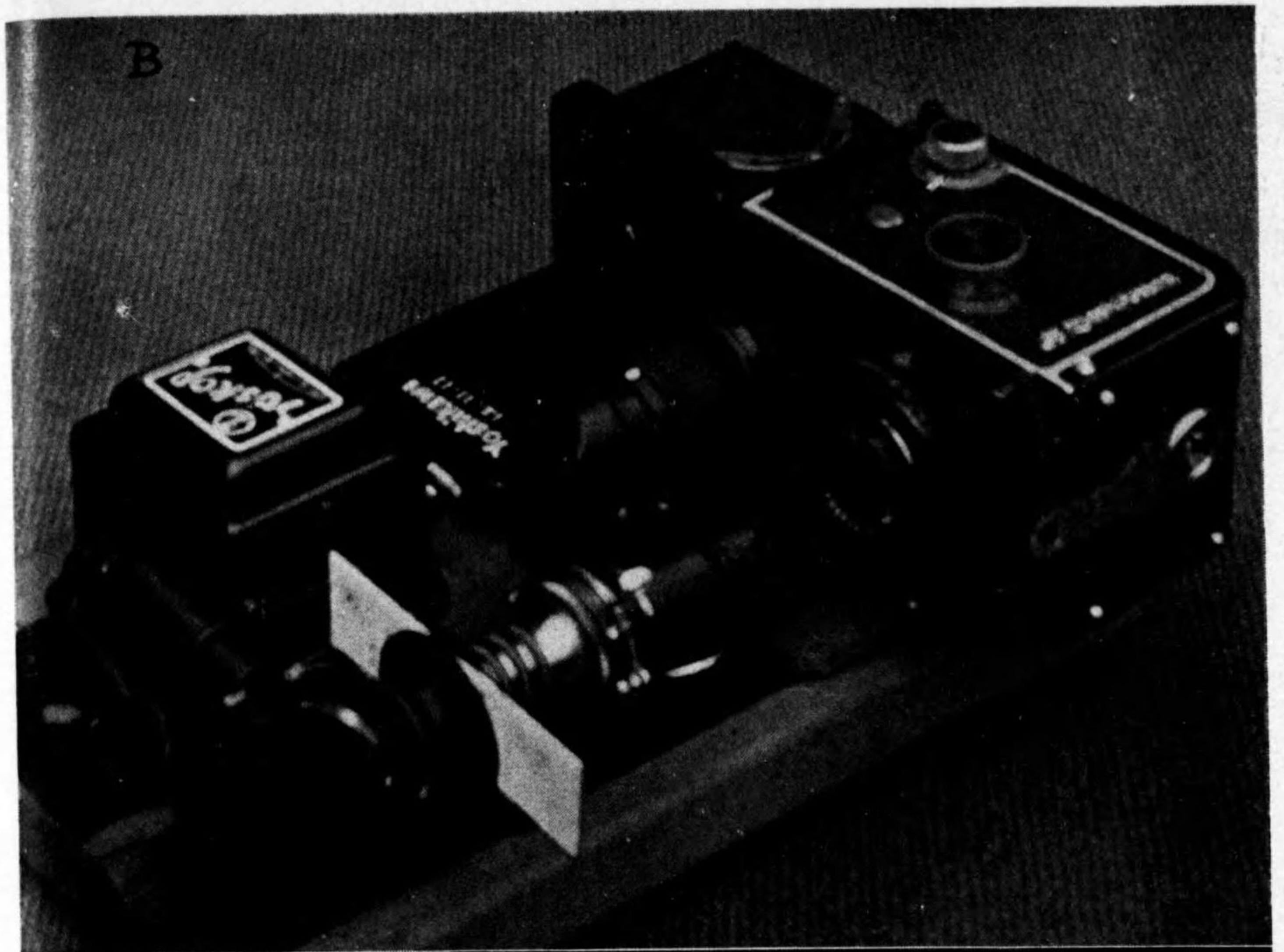
- 1 カメラの距離計は便宜上同じく ∞ にして用ふ。カメラは臺板上、又は特別の装置にして三脚上に据える。
 - 2 絞は通常開放のままとする。但し遠景で光の強い時は絞るも可。
 - 3 カメラのレンズと望遠鏡の接眼鏡との間は密着せしめ、間隙よりの光を防ぐ。
 - 4 フォーカスは單に望遠撮影の時は望遠鏡上で調節する。これは豫め二眼レフならば上方レンズで行ひ、後下方レンズに其儘修裝して撮影を行ふ。シャッターにはすべて長いリリースを用ひる。
- 以上は I に述べた望遠法と全然同じ。故に望遠の時は此装置で行ふ。
- 5 然るにこれを以て直ちに顕微鏡撮影に使用する場合には、顕微鏡の對物鏡のみを、此望遠鏡の對物鏡に加へるもので、此間の間隔はなるべく密着せしむるものである。これによつて II の顕微鏡撮影と全く等しい結果を得られる。倍率はこゝでは申上げられぬ。
 - 6 顕微鏡撮影に際してのピントの調節は主として顕微鏡の對物鏡と被寫體、即ちプレパラートとの間隙の調節による。
 - 7 被寫體、鏡、光源等すべて一般に行はれてゐる通常のままである。この部分の詳細は II の説明(5)を参照せられたい。

・私の望遠兼顯微鏡撮影装置・

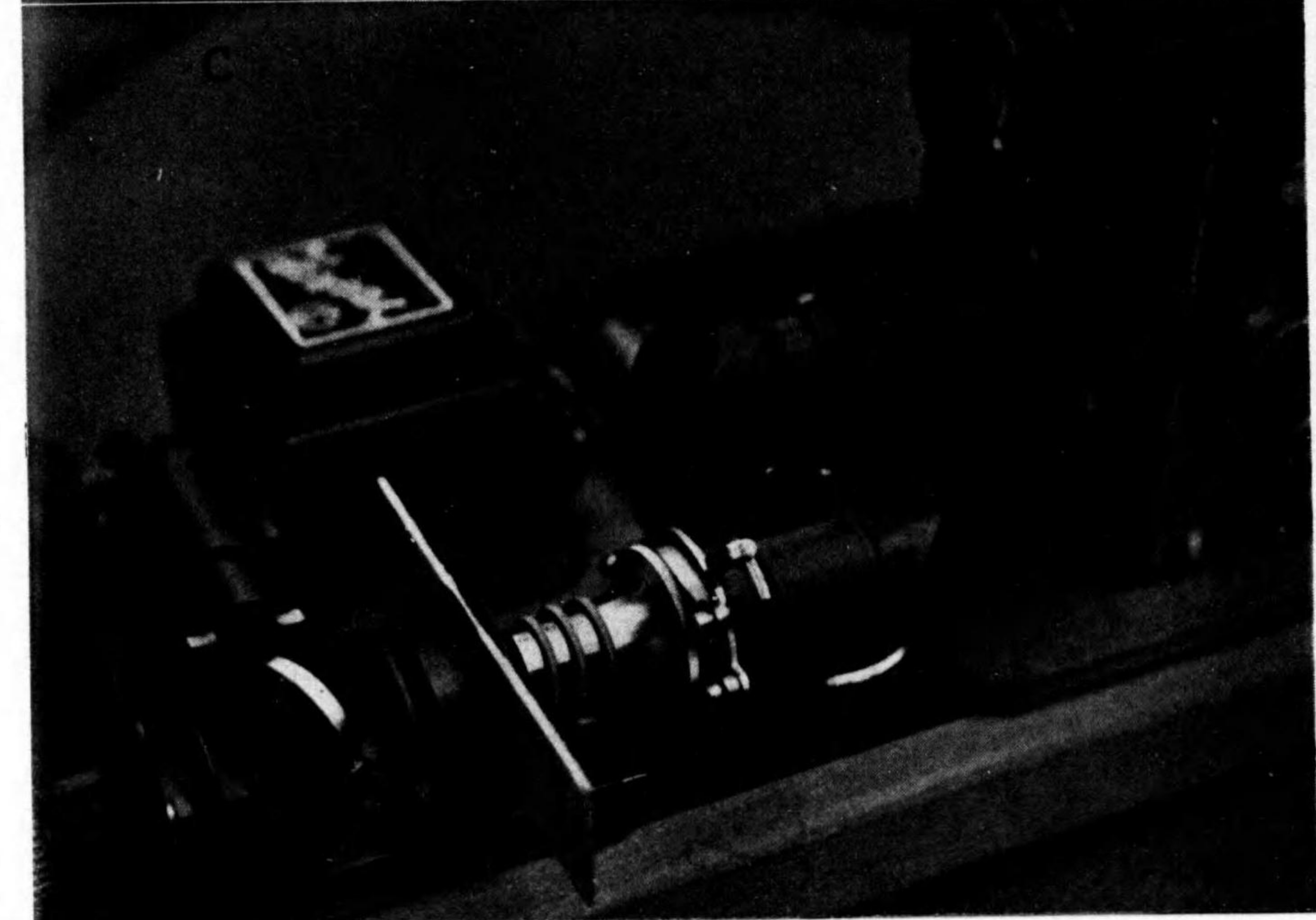




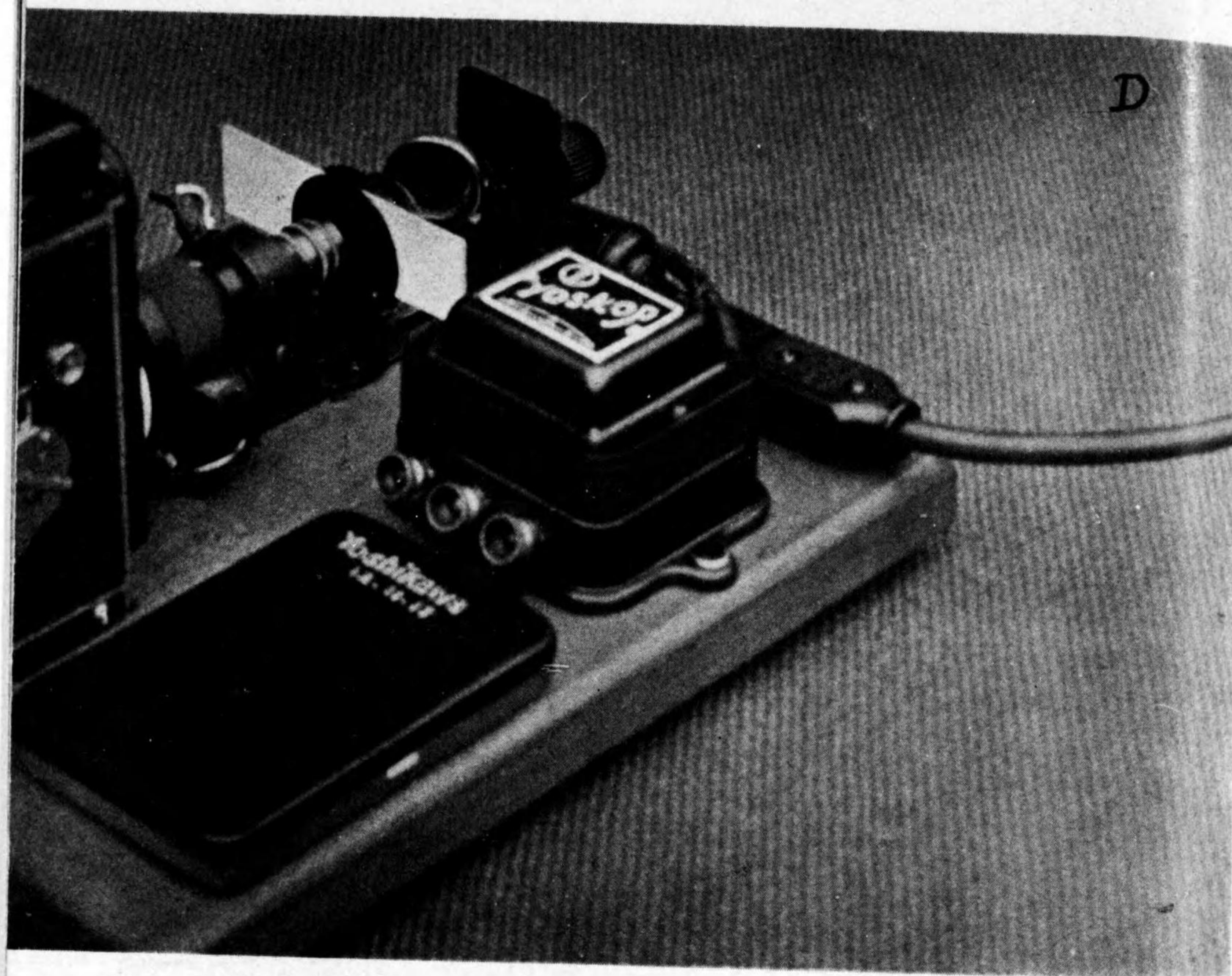
A 装置の全部



B ファインダーレンズとピントを合わせる



C 下玉で撮影する

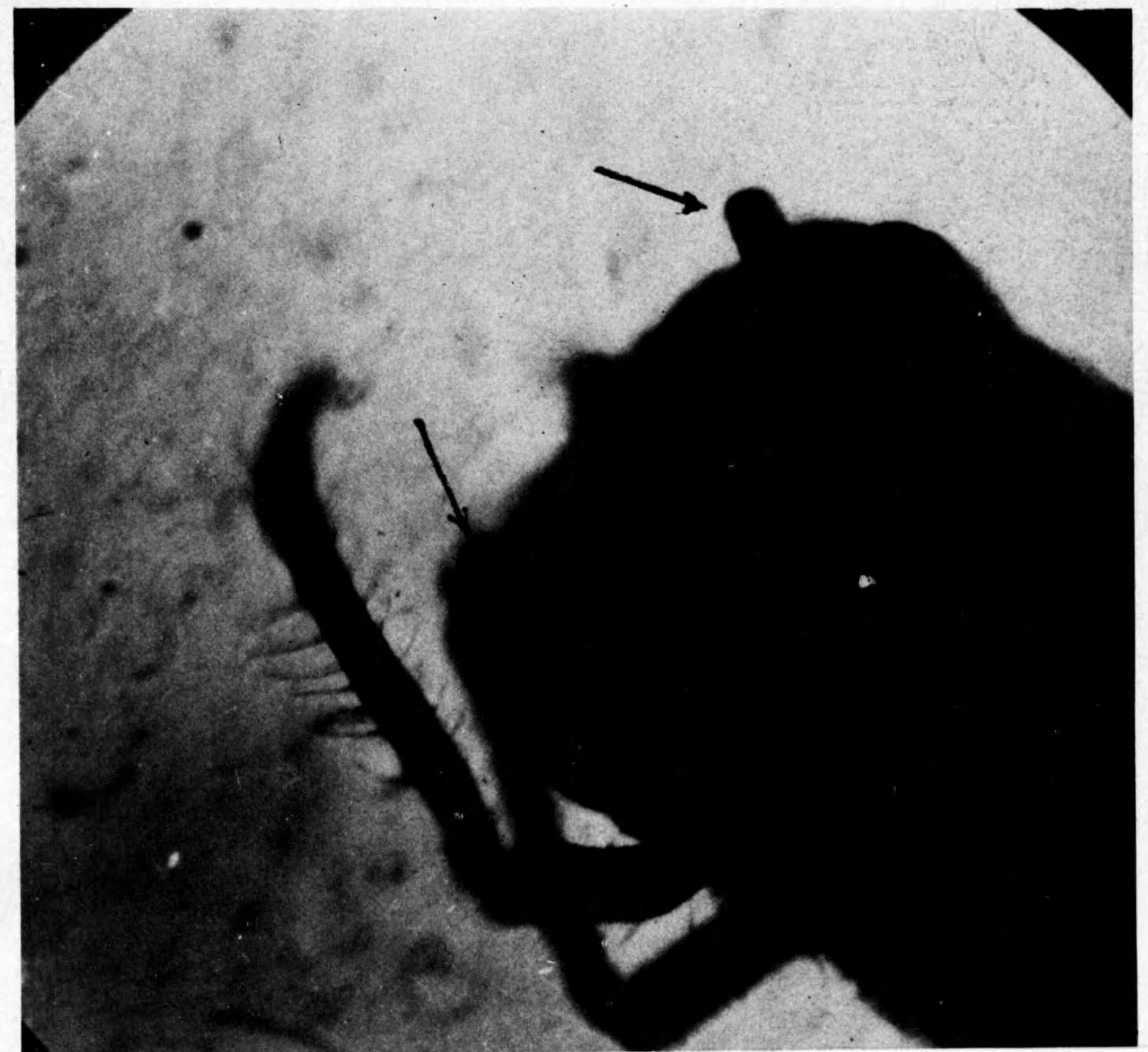


D 夜間の使用

夜間又は晝間室内で日光の代りに豆電球を光源とする實際を示す。この顕微鏡装置による結果として、次頁以下に掲げた作例は此圖の如く皆6Vの豆電球を光源としたものである

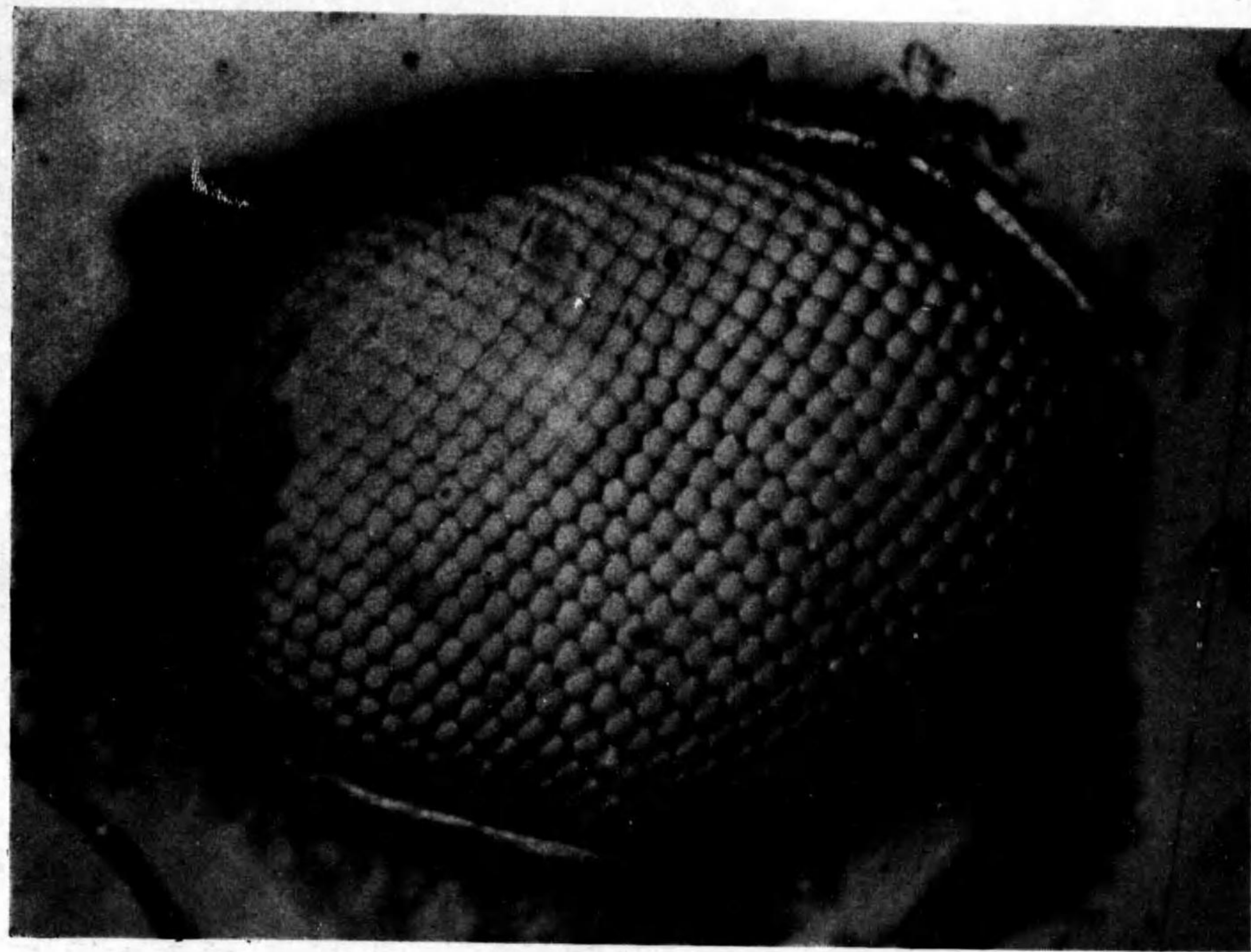
・ありまきの尾部・

昭和11年7月8日にクヂヤク草から採集してプレパラートに作成して置いたアリマキ (Aphids Greenfly) の尾部を新たに新装置によつて寫して見たものであつて、體全體の後半部が此寫眞に寫つて居る。頭部は右下方に隠れて居るのである。尾部に人間の乳房のやうな形の突起が左右二個寫つて居るが、恐らくこれから蟻が或種の液を吸ふのであらうかと、素人考へで思つたのであるが、よく此研究はして居ないから専門家に尋ねたいと思ふ。此プレパラートを作成した當時の事は前著“小型レフの寫し方”第270頁以下に詳記した通りであつて、再び御參照願ひたい。



・複眼・

冬となつた今蠅や蚊は一疋も居ない。何か虫が見つからないものかと思つて居る時、何と云ふ虫か名は知らないが家蠅よりも小さくそして體の細長い虫が硝子戸にとまつて居た。これを殺さず、そのままスソプ法によつて複眼の印象をセルロイド面に流した醋酸アミールの上に寫して、それを顯微鏡寫眞にしたのである。此圖は實物に對する場合の擴大率は恐らく數千倍になつて居る。顯微鏡に覗いた時、既に約500倍になつて居り、之れが擴大されてロライに寫り、更に引伸によつたからである。若し蠅の眼であつたならば、此網の目の如くなつて見える一つ一つの眼は、此圖には數個しか寫らぬ位の割合であらう。露出は矢張6Vの豆電球の光でネオクロームフィルムを以て1分間である。カメラの絞は開放してあるが、明るさは顯微鏡に支配されるから、幾つとは此場合記せない。

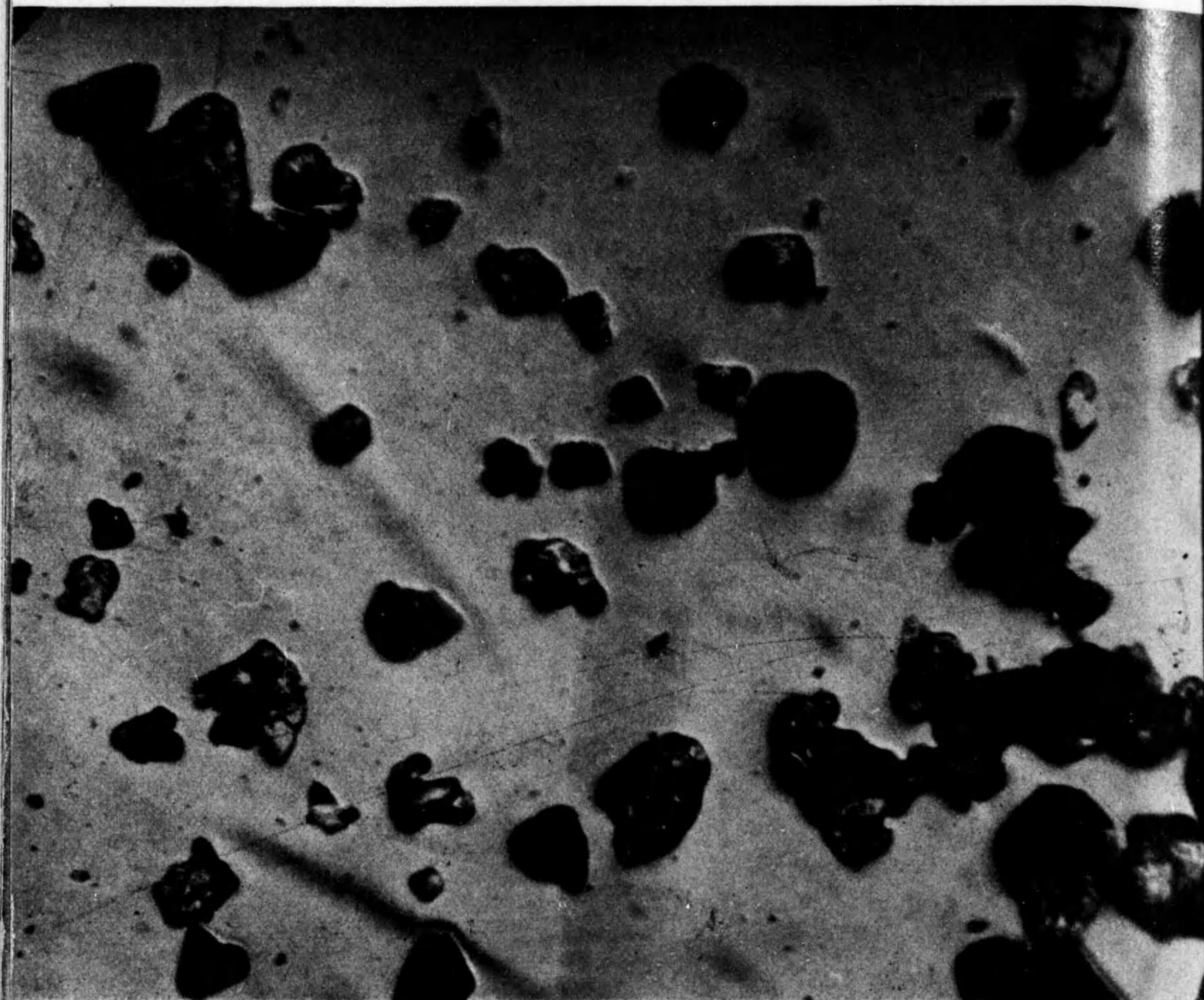


・柿の葉の表面・

柿の葉の表面をスソプ法(後述)によつてプレパラートに作り顯微鏡撮影したもので、其氣孔を示したのである。

クロームXフィルム
絞 開放 6V豆球
露出 1分
絞の大小は餘り関係ない。むしろ顯微鏡の明るさと電球の位置と反射鏡の角度によつて定まる。
ラッキー引伸機 染井B。





・火山灰・

去る昭和10年11月6日に浅間火山の大爆發の當時、午後3時頃東京市にも降灰があり私の庭にも非常に細い灰が霞の如くに見えた。その時私は早速庭に白紙を擴げてこれを採集し、かき集めて小壺に納めて置いた。それをセルロイド面にアミール

を流して、ごく少量を筆先で落して附着せしめ、顯微鏡寫眞の材料としたのである。火山灰は寫眞で見ると通り石英等が主であるから逆光線で見ると透明に寫るが、普通の灰は不透明で此様には寫らない。此圖の擴大率は非常なもので引伸操作までを入れれば恐らく數千倍の大きさである。多少ピントが悪かつた爲に思はしい出来ではないが、取り直す間がない爲にこのまゝ利用する事にした。

望遠鏡顯微鏡其他 附屬品に関する附記

(1) 望遠鏡、顯微鏡等の購入は最寄の眼鏡店、デパート光學器賣場等又は製造會社からカタログを取寄せられて研究の上、指定の販賣所から求められるがよろしからう。舶來品としてはツアイス、ライツ製品が目につく。又國産としては Olympus (オリムパス) Eliza (エリザ) 等を求めることが出来る。

尙、望遠鏡を求むる時、餘り大きい倍率のものを求めるときは下方レンズに移装した時に折角の目的物が畫の中から脱して居る場合が多いから、理想としては4倍乃至6倍であると心得ておかれたい。然し細々とした品物等に関しては或は土地によつて求むるに不便を感ぜられる方もあらうと思ふ。若し其やうな場合には、私が日常求めつけの店があるから、同所へ御照會なさるもよいと思ふので、次に便宜の爲め記して置く。一應印刷物説明書等を請求されるがよい。

東京市日本橋區通二丁目

日本ビル一階 ヤマト光學店

(2) 加工製作用具、塗料、鋏、ナット等の小金物、眞鍮板、其他求める。此店には大抵の必要な品物が用意されて居る。

東京市神田區須田町電車停留場前(地下鐵ビル向側)

河合模型材料店

(3) 顯微鏡で岩石、虫類、植物等の顯微鏡寫眞を行ふ研究者には是非最新發

明の“スンプ”材料をおすすめしたい。スンプと云ふ名は Suzuki's Universal Micro Printing の各頭文字を取つたもので、セルロイドを溶解したアミール液の如きを用ひて、今迄の面倒なマイクロームによるプレパラート製作に換へる新考案による方法で、過般來私も盛んに利用して居る。これは下記で一組2圓で求められる。

神田區錦町一丁目五番地誠文堂

子供科學代理部

(4) 舶來の顯微鏡は私は ツアイス社の代理店又はシユミット商店等より直接求めて居る。

(5) 顯微鏡に関する参考書として一二御参考に供して置く。餘り専門のむづかしいものより解り易いものの方がよい。

(英文) Photomicrography

Eastman Kodak Company N. Y. U. S. A.

(私の求めた價格 ¥1.90 丸善)

(獨文) Praktische Mikrophotographie

Wilhelm Knapp Halle am Saale

Deutschland

(價格失念)

(日本文) 理科實習

圖說顯微鏡活用法

井上勇著

神田區神保町一ノ一 三省堂發行 (80錢)

- (6) フィルムはパンクロ 或はオーソ任意のものでよいと思ふ。アマチュアとしては寫眞撮影以外には餘りフィルターの心配をしない方がよい。
- (7) 一般小型カメラ愛用家に申上げる。此考案は單に二眼レフのみならず、一眼レフは勿論普通のあらゆるロールフィルムカメラ、例へば3×4判のベビーパール、ベビーイコンタ、ベビーライラ、フオスデルビー其他全部、セミ判の全部にも、ブローニー判、ライカ判等に全く同じ方法の下に應用して効果が擧る事である。故に、充分科學寫眞の新研究を試みられる事を希望する。
- (8) 一般小型活動寫眞家にも申上げたい。此装置は又16ミリ 9.5ミリ 8ミリの撮影機にも其儘應用して實に興味のある映畫を作り得る事である。活動カメラは大概固定焦點であるから少しの調節を要せず直に應用出来る。又フォーカシング式のものならば∞にして行ふべき事は前述に全く同じである。
- (9) ロライフレックス、ロライコートに於て乾板用取枠装置(Plattenadapter, plate adapter)を持つて居られる方は、背景からピントグラス像を見られる事となるから、此試みを一層樂にする。従つて望遠及び顯微鏡撮影装置の臺を自製する場合に、カメラなり又は用具なりを、上下レンズに移動するやう工夫する必要がなくなるので、工作は簡便になる。



以上申上げた私の考案の如きものは既にこれ程完備したロライ用具として無くてはならぬ筈のものであるが、どう云ふものか、ロライは今日まで主として良い畫を作るカメラ、素人にも藝術寫眞が樂に出来るカメラ、寫し易い

カメラなど云ふ趣味本位のところで賞用せられて居る事は、内外共に變りはない。一方パノラマなり、ステレオなりの多少科學的或は實用的方面に觸れて居る此装置を持つ上は、科學寫眞用具として天下一品のものになる事は少しの疑の無いところである。雖て數年後には實現せられるであらう事を茲に豫言して置く。



以上はロライの如き二眼レフに於てこそ苦勞なのであるが、レフレックス、コレレ、プリマフレックス、ナショナルグレフレックス等に於てはどんなに便利か判らない。一眼レフの研究家と小型活動家は特に之等に關心を持つていたゞきたい事を茲に序年ら述べて置く。

スンプ略説

“スンプ”とは“鈴木式萬能顯鏡印畫法”の英譯名である。“SUZUKI'S Universal Micro-Printing”から來た略稱で、要するに“顯微鏡検査法の上に創案された一種獨特の方式”であるが、一面から見れば“プレバラー特製作技術の上に現れた驚くべき發明”であるとも云へる。

特にその方法が頗る簡単な上に、さらに危害を伴はないから、小供にでも安心して實驗させることが出来る。更にそればかりでなく、これに必要な材料が廉價であることも、また本法特色の一つとして數へ上げてよい。なほスンプは従來のプレバラー特製作法と全然その趣を異にして、被檢物を切り取つたり、薄片にしたり、或は藥品や染色劑で色々な處理をするようなことを全然やらない。

しかも、そのままその場で、精緻明快を極むる顯微鏡下の像影として、視野に展開させることが出来るのである。そのことこそ、獨りスンプのみが保有する特長中の特長とも云ふべきものなのである。

スンプを應用すれば

- ◇氣孔の分布やその開閉の現象などは
庭の樹の葉をそのままで、すぐ觀られる。
- ◇複眼やアンテナ(觸肢)等の驚くべき構造が
活きた昆虫そのままで、實驗出来る。
- ◇ミミズの剛毛でも、生肉の組織でも
メス一つ使はずに、らくに検査される。

- ◇レコードの溝條などでも、
聴きながら、顯微鏡で觀られる。
- ◇金屬の仕上面や、組織の検査なども、
普通の透射顯微鏡で充分まに合ふ。
- ◇銃腔やシリンダーの内面でも、
顯微鏡検査が頗る容易となる。
- ◇磨耗、腐蝕、成長などに伴ふ表面の變化、
それ等の觀察にも、また便利である。
- ◇本絹か人絹か、純毛か混綿か、
織物の鑑定などに、此れ以上のものはない。

(以上スンプ説)
(明書より轉載)

卷末のことば

日頃耐えられるだけの多忙の仕事を他に持ち乍ら、一つ一つ実験を重ねつゝ来た記録が積み積つて今や本書となつたが、此外にも随分澤山の事を未だ本書に掲げず残してある。それは一切助手を使はぬ私として一時に出来難いからである。

此間に讀者の方々から色々御質問状を拜受して居るが、私は日々全能力を傾注しても早朝から深更午前一時過まで寸暇もないのであるから、簡単な御尋ねにも此頃は思ふやうに御返事出来ず、申譯ないと思ひつゝ、机上に山積して居る有様であつて、未だ御返事差上げ得ぬ讀者の方に對しては茲に心から御詫申上げなければならない。



私は此一巻を出版するにも、實は途中幾度か最早これで身の終りかと覺悟した位、無理な研究をして来たのである。これは玄光社主北原氏もよく御存知の事である。總べて結果と云ふものは常に努力と比例すると私は信ずるからである。出来得る限り魂を打込んで出来得る限り自

分の仕事を良いものにするのが私共としても義務である事を確信するからである。



外國のカタログを前にし、たゞそれを片端から邦文にして一書とする位ならば悠に五六日を以て私は本書位の一巻を作る事が出来るであらう。然し左様な程度のものを以て、私自身も満足は出来ないし、又期待して下さる讀者諸君にも御覽に入れる心にはなり得ない。



本書を今前にして眺むるに私としては未だ最初の考の半分にも達して居ない。もつと澤山の作例を掲げたい。然し紙数の限度もあり出版上の都合もあるので止むなく後日に分つ事にしたのである。

本書中度々申し上げた通り、決して私はカメラ競争や装置の整備だけの意味で本書を執筆したのでなく、最も低廉なカメラを以てもよく眞剣な研究をついけ、或は自己と腕と頭腦とによつて優れたる結果を得ていたゞきたいが爲であつた。



最後に一言申添へたい事柄は 本書の出版には私は出版所に對し、かなり色々の註文を並べた事である。即ち原色版を少しでも入れる

事、特別上等の製版と印刷技術を以てする別刷挿畫を巻頭に豊富に入れる事、用紙も最上のものを用ひる事、などがその例であるが、玄光社主北原氏は出来るだけ私の請を容れ、然も原色版は三色版でなく贅澤な四色版を以つてする事に決し、別刷挿畫を約四十枚入れる事にした事などは、目下の時局にあつて非常な犠牲を忍ばねば出来ぬ事なのである。これだけでも従來の拙著の生産費と同じだけの金額に上つてしまうのである。而も其他の點に於ても出来得るだけの一流品を志した爲、幾分本書が従來の拙著に比して高價である事は當然である。否今後も私は代價の如何を問はず、最上級の書物を作る事に決意して居る。本書は試験的乍ら其第一着手である。猶今回本書の表紙と外箱とを私自身圖案したのである。然し本文の方は小黒誠氏が多忙の中に一人で引受けて下されたもので、茲に氏に心から感謝する次第である。

茲に本書の執筆を終るに當つて諸君の御健闘を切に祈る。

著者

吉川速男

“私のロライ” 終り

私のロライ

定價 3圓20錢

昭和13年1月14日印刷

昭和13年1月19日發行



著者 吉川速男

發行者 北原正雄

東京市牛込區東五軒町39

印刷者 山本英治郎

東京市牛込區東五軒町40

印刷所 山本源太郎印刷所

東京市牛込區東五軒町40

發行所 東京市牛込區東五軒町39 振替東京17063・電話牛込3306 **玄光社**

玄光社寫真書總覽

被寫別 體別	寫し方全集	吉川速男著	近刊
私	のロライ	吉川速男著	定價三圓二十錢 送料十錢
寫真 構圖と	トリミングの實際	冬木健之介著	定價二圓五十錢 送料十錢
修整	の實技	久米福衛著	定價四圓八十錢 送料二十二錢
スーパーシックス	の寫し方	山田越二著	定價二圓五十錢 送料十錢
イコフレックス	の寫し方	吉川速男著	定價二圓五十錢 送料十錢
構圖とトリミング		小黒誠著	定價二圓五十錢 送料十錢
オリムピック寫真集		P.ヴォルフ撮影	定價二圓五十錢 送料十錢
小型レフの寫し方		吉川速男著	定價二圓六十錢 送料十錢
人物寫真の寫し方		熊谷辰男著	定價二圓六十錢 送料十錢
撮影・作畫の新技法		小石清著	定價二圓五十錢 送料十錢
私の引伸		吉川速男著	定價二圓五十錢 送料十錢
靜物寫真の寫し方		光村利弘著	定價二圓五十錢 送料十錢
風景寫真の寫し方		眞繼不二夫著	定價二圓六十錢 送料十錢
カメラ・ハイキング		吉川速男著	定價二圓五十錢 送料十錢
撮影十二ヶ月		吉川速男著	定價二圓五十錢 送料十錢
味眞 寫眞	撮影第一課	齋藤鶴兒著	定價二十圓 送料十錢

圖解寫真術初歩	吉川速男著	定價一圓五十錢 送料十錢
小型カメラの第一歩	吉川速男著	定價二圓五十錢 送料十錢
私のロライ力	吉川速男著	定價二圓五十錢 送料十錢
微粒子現像法の實際	鈴木八郎著	定價二圓二十錢 送料十錢
山岳寫真のうつし方	額田敏著	定價二十四圓 送料十錢
新興寫真の作り方	金丸重嶺著	定價三圓九十錢 送料二十二錢
引伸寫真の作り方	齋藤鶴兒著	定價二十四圓 送料十錢
引伸の實際	鈴木八郎著	定價一圓八十錢 送料十錢
藝術寫真作畫の實際	眞繼不二夫著	定價二圓二十錢 送料十錢
藝術寫真の作り方	齋藤鶴兒著	定價二十四圓 送料十錢
修整の實際	山崎悅三郎著	定價二十四圓 送料十錢
印畫修整の實際	寺岡徳二著	定價二圓六十錢 送料十錢
8ミリの第一歩	吉川速男著	定價二十四圓 送料十錢
パテ一の第一歩	吉川速男著	定價二十圓 送料十錢
パテ一の第二歩	吉川速男著	定價二圓五十錢 送料十錢
16ミリの第一歩	吉川速男著	定價一圓八十錢 送料十錢

東京市牛込區
東五軒町三九

玄光社

振替東京一七〇六三
電話牛込三三〇六

玄光社の寫眞書

小型レフの寫り方

吉川速男氏著

総クローズ総アート紙
新菊判・説明寫眞満載 定價 ¥ 2.60 送料
¥ 0.14

現代寫眞界の寵兒小型レフ！ライカに代つて全寫眞界の興味を集め、その中心に立つものは實に小型レフである。而も現代人の要求に最も適合した特有の性能と利便さを以つて、正に明日の寫眞を支配せんとしつゝあるこの驚異すべき各種小型レフか、如何なる機構を持ち、如何に性能を發揮するかに就き徹底的に剝別解明し、撮影に當つてその機能をいかに活用するか？如何に使ひ如何に寫せば最上の結果を得ることが出来るかに就いて、その個々の場合に互つて最も詳細に解説指導されたものこそ本書である。率直明快なる著者得意の麗文と理解を助ける豊富なる寫眞の挿入！是ぞ小型レフを完全に活用する必讀待望の指導書である。

寫眞實技大講座

空前の新陣容になる寫眞實技の決定的指導書
果然！白熱的大好評大歡迎！逐次刊行配本中
アマチュア必須の科目と、現寫眞實技界の最高權威を講師とする斯界空前の大指導陣、筆者各々その最も得意とする項目に就き全蘊蓄を傾倒し、而も挿入寫眞の豊富・鮮麗、加ふるに平易懇切を極めた解説、今や最高最新の實技は全寫眞家に開放された！先づ書店にて實物を見よ

堂々全十二巻の内容 新大型菊判、恩地孝四郎畫伯裝幀の超豪華版、會費毎月 ¥ 2.50 送料22

- | | |
|--|---|
| 1. 撮影の實際
最新カメラの知識・吉川速男
レンズの性能と選び方・林一男
材料と露出の決め方・長濱慶三 | 7. 各種撮影の實際
静物撮影・高田皆義
スポーツ撮影・三浦實吉
航空撮影・佐々木信暉
生態撮影・下村兼史
商業寫眞の實技・金丸重嶺 |
| 2. 小型カメラの寫し方使ひ方
・木村伊兵衛 | 8. 整色寫眞の實際
整色寫眞の知識・森芳太郎
整色撮影の實技・寺岡徳二
天然色撮影の實技・本莊誠 |
| 3. 人物寫眞の狙ひ方寫し方
・眞繼不二夫 | 9. 現像と焼付
現像の實技・藤澤信
焼付の實技・渡邊定男 |
| 4. スナップ寫眞の狙ひ方寫し方
附 舞臺撮影の實際・渡邊義雄 | 10. 原板と印畫修整
原板と印畫修整・寺岡徳二
人物寫眞の修整・熊谷辰男 |
| 5. 風景撮影の實際
一般風景・安井仲治
山岳と雪景・塚本閻治
夜間撮影・眞繼不二夫 | 11. 引伸の祕訣
・齋藤鶴兒 |
| 6. 風景撮影の實際
海景撮影・下島勝信
田園風景・阪井政次郎
都會風景・渡邊義雄
赤外風景・小石清 | 12. 近代寫眞の新技法
・中山岩太 |

東京市牛込區 玄光社 電話牛込3306
東五軒町三九 振替東京1.063

・内容見本送呈・

467

寫眞

月刊寫眞雜誌
最新豐富なる寫眞及び記事満載

内容は寫眞技術の全般にわたり、徹頭徹尾實技を經とし、理論を緯とする實際的編輯である。筆者は斯界に於ける既成新進の一大權威を網羅し、記事は豊富にしてあくまで平易、飽くまで懇切、而も鮮新にして興味を横溢せしめたものである。本誌こそ、正に寫眞界の動向を指示する燈臺であり、最新知識と實際技術を明示する羅針盤となるであらう。

定價 五十錢
半年二圓九十錢
送料 四錢
一年五圓五十錢

劃期的印畫修整繪具の出現

サロン・ブラックは寺岡徳二氏指導の下に東洋インキ製造株式會社研究部に於いて多年研究の結果完成せる劃期的印畫修整繪具である。その適度の延性、乾燥性、色素粒子の微細、修整痕跡絶無等印畫修整上の必須條件を具備し而も印畫紙の種類を問はず、また初歩者にも完易に操作し得るなど、從來の修整繪具に比しその効果の顯著なるは實驗者の驚異とする處である。

黒色優美硝子容器入

定價 一瓶一圓
送料 六錢

サロンブラック

743-Y89ウ



1200500751980



終